

令和5年度戸塚区医師会心疾患多職種連携研修アンケート結果（令和5年11月16日開催）

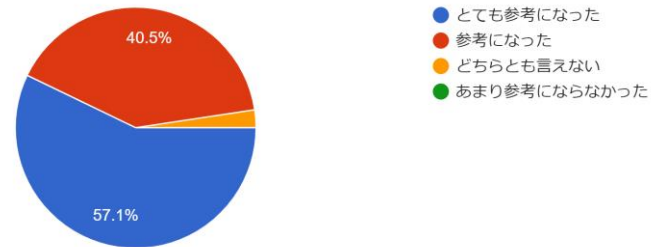
テーマ：「これからの心臓リハビリテーション」

参加者95名(会場参加55名 ZOOM参加40名)アンケート回収率44%

参加者内訳(医師6名 歯科医師2名 看護師18名 薬剤師4名 リハビリ職23名 ケアマネ16名 消防4名 ジム2名 医療局3名 その他17名)

本日の講演について

42件の回答

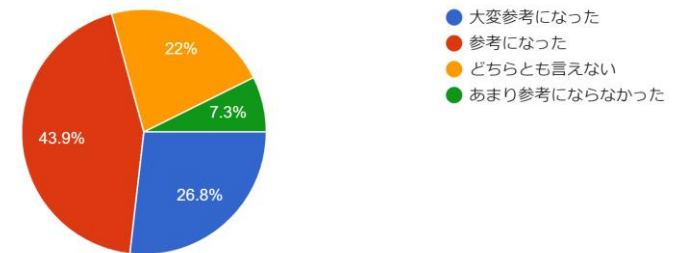


本日の講演について（主な回答より抜粋）

- 心不全のステージについてや、回復維持期に、地域のスポーツセンター等が受け入れ先になっていることを初めて知った。
- 心疾患から運動を怖がりサルコペニアになっている利用者がいる。ケアマネとして知識不足のためリハビリの必要性をきちんと説明できなかったのが、今回とても勉強になった。
- 介護施設までの連携があまり出来ていないように思う。施設には心リハの対象になる疾患を持った利用者さんも来ているが、「心リハ」クレヨンプロジェクト等知らなかった。SC等の対象は要介護以前の方だが、要支援・介護の方にはデイも上手く使って欲しい。心リハが出来る場所が少ないのであればこれからは心リハについて勉強し、私達に出来る事を増やしていきたいと思う。
- 訪問リハ・通所リハなどでは、主治医と詳細なやりとりが難しいため、少ない情報下でのリハビリ提供となることが多く、非常に怖さがあった。少し不安が解消された。
- 回復期病棟退院後の患者様用の練習メニューや、家族が認知症の方に難しい基準等をどう教えるのか気になりました

パネルディスカッションについて

41件の回答

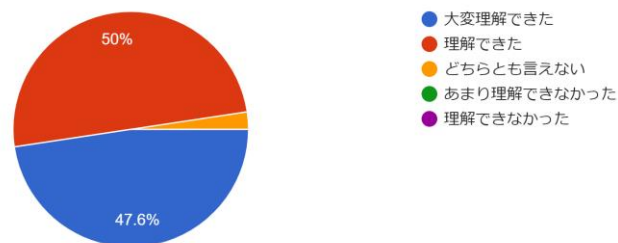


パネルディスカッションについて(主な回答より抜粋)

- 在宅との接点についてもう少し踏み込めるとよかった。
- 短時間で内容を詰め込んだ感じだった。
- パネリストたちの意見交換等をもっと拝聴したかった。質問に答えるのみの場面が多く、ディスカッションでの成果、まとめ、大まかな結論を最後に参加者として共有できる時間が欲しかった。
- 介護施設に従事する身として、心疾患を持つ利用者様への運動負荷については非常に悩むことがある。今回実際対応するにあたって、色々な視点からの質疑応答がありとても参考になった。
- 特に心臓疾患においては運動よりも安静が必要と考えてしまい、リハビリ導入を躊躇することもあったが、やらないよりやった方が良い、という言葉があったことや、実際の注意点なども聞くことができ良かった。
- 音声に関して、オンラインでの音声不明瞭で全員のやり取りがよく聞き取れなかった。zoomで参加したが、音声聞き取れなかった。等多数のご意見をいただきました。

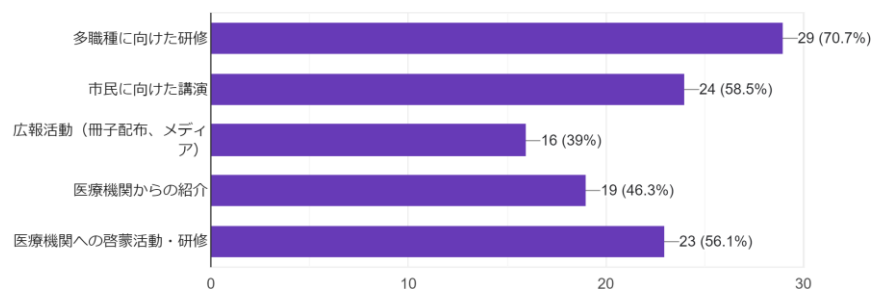
心臓リハビリテーションの必要性をご理解いただきましたでしょうか。

42件の回答



心臓リハビリテーション普及のために必要と思われることを選んでください（複数可）

41件の回答



心臓リハビリテーション普及のために他のご意見をお聞かせください。（主な回答より抜粋）

- ケアマネジャーとしてはケアプランを作成する際、病気を理由に体を動かすことに不安を抱いている方が多い。運動やリハビリを組み入れたいと思うが、なかなか同意を得ることができないことが多い。医師から心臓リハに関するメリットや禁忌事項、実行する負荷の値等の情報提供があると安心。
- ケアマネ自ら意識して情報収集することは必要。ケアマネ含め介護職向けの研修会の開催をして欲しい。
- 在宅介護サービス（訪問看護、訪問リハ）で、すべての事業所が行えるようになること。
- 基幹病院側が在宅に何を求めているか、かかりつけ医側も何を求めて紹介するかのすり合わせを行う。
- 戸塚区医師会のホームページ上に心疾患の取り組みや心リハ紹介状のフォーマットの掲載。
- スポーツセンターの取り組みは時間や金銭面で受け入れやすいが、心疾患ということで緊急時の対応に対しての不安がある。緊急時の取り組みなどを分かりやすく提示して欲しい。
- 漫画等の冊子は読みやすくわかり易かった。これからの世代には、SNS等を利用しても良いかと思う。
- 働き盛り（40代50代）でも心臓リハビリテーションは必要になるかもしれない。高齢者の家族や孫世代にもっと必要性を伝えることができれば良いのではないか。
- 病院と訪問看護との連携、心不全患者情報の共有等
- 医療機関の次のステップを幅広く見ること。（地域資源の活用）

ZOOMでのご参加の皆様へ。

通信障害のため音声の乱れがあり、お聞き苦しい点がありましたこととお詫びいたします。

ご協力ありがとうございました。